初教 KAWARABAN
かわらばん
第6号
2004.8.6
広島文教女子大学
教育学会
発行

「みちくさ」考

学科長　金舛　俊乍

最近、車を運転していて考えさせられる光景を眼にすることがよくある。いわゆる「ながら運転」である。携帯電話をかけながらの運転。タバコを吸いながらの運転。お茶を飲みながらの運転。これらは今や常識の域。信号待ちのわずかの時間、新聞を読み出す長距離運転手。お化粧を始める女性運転手。髭を剃り出す男性運転手。はたまた…。

こんな光景を眼にすると、ふと昔を想い出す。学校帰りにカバンを投げだし、川での魚とり。山でのターザンごっこ。道端に座り込んでの友との語り合い。それも日が暮れるまで。時間を気にすることはなかった。時間に追われることもなかった。それが結構楽しかった。大人も決して注意はしなかった。社会全体がそうであったような気がする。ゆっくりと時間が流れていたような気がする。みんなが「みちくさ」を楽しんで生活していたような気がする。

ところが、今の子どもは、今の大人は、今の家庭は、今の学校は、今の社会はどうだろうか。時間的なゆとりを、精神的なゆとりを、昔経験した「みちくさ」を、忘れ去っているような気がしてならない。時間に縛られた生活に追われ、生きていく上で大切な「何か」を忘れ去っているような気がしてならない。たまには、「みちくさ」をしてゆったりと人生について、自分の今の生き方について考える余裕があってもいいのではないだろうか。

20期のゼミ生たちと

最近の時世を見つめながら考える昨今である。そう言いつつも「みちくさ」を忘れ、日々の生活に追われている自分だが…。

子どもと共に学ぶ毎日。コツコツと…!!

宮崎市立青島小学校教諭
日野　希代子さん
（旧姓　猪ヶ倉　初教14期生）

教え子たちと日野さん

「ありがとう。」…この5年間は周りの人々に感謝の気持ちなくては言い尽くせません。

延岡市立延岡小学校に赴任した三年目。「なんて大変な職業なんだ!」と理想と現実のギャップを目の当たりにし、力量のなさに、よく、怖し涙を流したものです。しかし、指導教官の「新米は一番おいしいのだから、自信をもってやりなさい。」との励ましの言葉や、子ども達の笑顔、先生方の温かなアドバイスに支えられながら無我夢中の忘れられない、忘れてはいけない一年となりました。

そんな初々しかった私も、早いもので教職6年目を迎えました。昨年の11月、私の師匠・原田先生いわく、「エビで鯛(?)をつった」(結婚)り、今年度、宮崎市立青島小学校に転勤したりして、生活の環境がガラッと変わりました。「青島」と言えば、青くて、広〜い海が広がってる観光地です。そこで、私も海の広さに負けじと大きな声を出し、子ども達のパワーをもらいながら頑張っています。昨年は2クラス40人の担任でしたが、今は1クラス14人3年生の担任です。

大規模校から小規模校に転勤したので、不安な気持ち一杯でしたが、人なつっこい子ども達に救われました。廊下のあちこちに巨大なカニがガサゴソと出現するのにはまだ慣れませんが…(笑)。

呑気な私ですが、子どもとの関わり方で大切にしてきた「心得」が6つあります。それは…

①「子どもが好きであれ」
②「子どものためであれ」
③「聞き上手であれ」
④「叱り上手であれ」
⑤「誉め上手であれ」
⑥「子どもの身近な存在であれ」

ということです。

いろいろな可能性を秘めた子ども達と、共に過ごすことができる幸せな職業であることを誇りにしながら日々努力の毎日です。

これからも、のほほんとした性格を生かして、誰からも信頼される教師、なぜだかわからないけど、先生の近くに行きたくなるような心の温かい教師を目指して頑張っていくつもりです。「初心忘るべからず」の精神で…

面白ゼミ紹介　児童教育コース 体育専修 山下美佐子ゼミ

レポーター
初等教育学科3年生
石谷　桂子（体育専修）

みなさんこんにちは。今日は、文教女子大学の先生で、文教幼稚園の園長先生でもある山下先生の取材をしてきました。山下先生は、普段からよく話しをさせてもらっているのですが、とっても明るい先生です。山下先生の口ぐせは「スゴイ!!」と感心してくれるのからだそうです。みなさんも山下先生のお手玉の技にはきっとビックリすると思います。「座山下先生に「お手玉の技を見せて頂けませんか!!」と声をかけてみてください。先生になるとき何か1つでも得意な事があるといいですよね。

今はこんな山下先生ですが、実は恥ずかしがり屋で、人前で話をするのがとても苦手だそうです。取材に行っていた私と、体育専修3年の高松さんはそれを聞いたとたん「えーーっ!!」っと思わず叫んでしまいました。わたしたちから見ると全然そんなそぶりはありません。いったい何が山下先生をかえたのかと聞くと、それは「表現」だそうです。みなさんも山下先生の授業で表現をしたと思いますが、あの表現です。先生は、表現から勇気をもらったと言っておられます。表現をやりだすとすごく楽しくて、うまくなくても心の中をはき出すことができたと言っておられます。みなさんも友人関係で「こわって言ってもいいの?」と思うことがあると思います。そのときにずっと言える勇気を山下先生は表現からもらったと言っておられます。「言ってもいいの?」ということを言ってみるとそれを友人は受け入れてくれたと山下先生は感じてくださいました。そういう友人が私たち学生にできることを望んでおられるようでもありました。

最後に、山下先生に学生にエールを!とお願いしました。すると山下先生は、「誰かを幸せにしたいとき、なって欲しいと願うとき、まずは自分が幸せになること。誰かを楽しくさせたいとき、まず自分が楽しく思うこと。自分の話を他人に聞いてもらいたいとき、まずは他人の話をしっかり聞くこと。自分に素直で、自分を大切にすること。でも、自分自分とそればかりを強調してしまうとわがままになり、意味が違ってくると最近思う。」と言われました。考えさせられるけれど、心の奥でじわっと勇気がわいてきませんか?

山下先生は、ケセラセラで生きているそうです。でもその裏側には人の知らない努力が隠れています。私は取材をしたことで山下先生のことを前よりももっと好きになりました。みなさんも一度体育部にある山下先生の部屋をノックしてみてください。きっと山下先生の笑顔が受け入れてくれると思いますよ。

集まってきた体育専修のメンバーと山下先生

新人登場

初教を代表して、山西と本山が善本桂子先生にインタビューしてきました!!

最初、ビデオの前で恥ずかしがって緊張していた善本先生でしたが、いざビデオを回し始めると一転して雰囲気になり、ポーズまでとりだすという雰囲気な先生だということを発見しながらも、早速インタビューに移りました。

学「今年、神原雅之先生の後任として来られた先生ですが、文教に来てみてどんな印象を受けましたか?」

善「まず、まじめで素朴な学生さんが多いと感じました。授業を始めると、私の話を聞き取ろうと鉛筆を持って構えているので驚きました。逆に変な話もできないなとも思いましたけれど(笑)。学生さんにはいつもパワーをもらっています。」

学「今年初めての環境に飛び込んだわけですけれど、先生の周りの方の反応はどうでしたか?」

善「友人がとても心配してくれました。特に高校時代に苦しみを分かち合った友人からは、気にかけて声をかけてくれたり、励ましのメールをもらうもしました。」

学「ピアノを自由に操る先生ですが、何がピアノにのめり込むきっかけはあったのですか?聞くところによると、親習がきらいだったとか…」

善「高校の時のある先生との出会いですね。大学を出たばかりの若い女の先生で、いつも明るくさわやかな方でした。授業中、「今日は何風がいい?」と言って、生徒のリクエストに合わせて、ある時はジャズ風、ある時はモーツァルト風、というように即興でピアノを弾いてくれました。そんな先生の姿に憧れを抱き、その頃から楽譜に書かれていないものを弾く楽しさを感じるようになりました。ピアノで遊ぶことをその先生から学びました。」

学「リトミックを学ぶために何度も海外へ行かれたそうですね。そこで学んだことは何ですか?」

善本先生と山西（右端）・本山（左端）

善「自分が日本人であることですね。たくさんの外国人に囲まれ共に学び合う中で、様々な異文化に触れることが出来ました。しかし、外国を知ろうと思って行っているはずなのに、その経験の多くは日本人としての私を自覚させるものばかりでした。今も時々海外へ足を運びますが、日本を感じたくて行くのかもしれません。」

学「最後に、善本先生の〝夢〟を聞かせてください!」

善「考えたことないです(笑)…今を一生懸命生きること。今の私にはそれが精一杯です。またいつか尋ねてください。その時、答えられるようになっていたらいいな。」

少し疲れながらも優しい眼差しでインタビューに応えてくださった善本先生。心の根底を全く感じさせず、ふっと心に寄り添ってくれる〝お母さん〟のような温かさを感じました。

ここでお知らせです☆「ティータイム大好き!」という善本先生の研究室は音楽棟の3階にあります。美味しいお茶と善本先生の笑顔で「ほっ」と一息、いかがですか?

学…（学生）　善…（善本先生）

編集後記

T　というわけで、本号のために、ご協力いただいたみなさん、本当にありがとうございました。

O　心より御礼申し上げます。

T　今回は記事が多かったので、編集記はこれで終わりまーす!

O　と、嬉しい悲鳴でありました。

平成16年度
初教スタッフ（五十音順）
新枝　勝／有馬比呂志／植田ひとみ／浴野雅子／岡　利道／奥　雅雄／金舛俊乍／川西正行／黒柳宏義／佐伯育郎／新宅雅和／杉山浩之／田頭穣積／藤本津夫／中島雪絵／原田正治／村上典章／山下美佐子／吉田裕午／善本桂子（新任）
※前年度異動・退任等
神原雅之（辞職・国立音大へ）
小西忠男（人間言語学科へ）

「初教かわらばん」編集スタッフ
田頭穣積／岡　利道／中島雪絵／山田悦子／山西景子／本山英佳／石谷桂子／岡本理那／清田公美／宮本智子

「初教かわらばん」投稿のご案内
次の要領で原稿をお寄せ下さい。掲載分につきましては、薄謝進呈。
○文量　八百字程度
○写真　一〜二枚
○送り先　〒七三二―〇二九五
広島市安佐北区可部東二―二―二
広島文教女子大学　岡　利道あて
または
t.oka@h-bunkyo.ac.jp